

平成 30 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	広島県立尾道特別支援学校
-----	--------------

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

昨年度初めて実施した記名式食生活アンケートの結果では、朝ごはんを毎日食べて登校する（83.2%）、土日や夏休みも毎日朝ごはんを食べている（72.6%）、家で食事をする時、「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをする（84.1%）であり、普段から朝ごはんを食べない習慣がついてしまっている幼児・児童・生徒が一部見受けられた。また、普段は朝ごはんを食べるが、週末や長期休暇など学校が休みの日には生活リズムが変わり、朝ごはんを食べない生活になっている児童生徒の実態もみられた。

栄養教諭の食に関する指導では、教科の年間指導計画の中に栄養教諭が位置付いておらず、単発での関わりが多いのが現状である。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

成果指標：朝ごはんを毎日食べて登校する幼児児童生徒の割合 90%（昨年度 83.2%）

食事の際に「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをする幼児児童生徒の割合 100%

（昨年度 84.1%）

評価指標：食生活アンケートを複数回実施し、今年度内での実態の変化を評価する。

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組 1】（テーマ） 教科等における食に関する指導

聴覚障害部門 小学部 3・5 年生（重複）学級での「バケツ苗を育てよう」の単元で、児童が苗を植えたり、成長を観察したり、稲刈りをして、もみすり、精米、試食に至るまでの授業へ数回参加した。

1 回の給食で使用する米の量を提示し、児童は自分たちがバケツで育てた米の量と比較することで、生産者の苦労を想像し、ごはんつぶ一粒一粒を大切にしようと考えた。

また、ごはんの栄養についてや、おかずとしてどのような食品と組み合わせると良いかなどを栄養教諭が給食の献立と関連付けて話をした。家庭における「ごはんを主食とした主食・主菜・副菜のそろった朝ごはんの喫食」につながるよう、ごはんを食べるにはよく噛むことが必要であり、消化・吸収の面でも朝ごはんに適していることも学習した。

児童は学習の内容を壁新聞にして掲示し、他の学年への情報発信にもつながった。



【取組 2】(テーマ) 学部朝会での食に関する指導

毎月1回、知的障害部門中学部・高等部の学部朝会へそれぞれ参加し、毎月発行の給食だよりの内容に沿って短時間の指導を行った。

朝会での内容をその日の給食時間の実践につなげる姿が見られた。

年度の後半からはICT機器を活用し、モニターで拡大したり画像に動きを付けたりしてクイズ等を取り入れて指導を行った。

②心を込めて「いただきます」「ごちそうさま」

「いただきます」には、肉や魚、野菜や果物、米などの命をいただいていることへの感謝の意味があります。「ごちそうさま」には、食事のために駆け回っていただいた人への感謝の意味があります。
心を込めてあいさつをしましょう。



Q.1 昭和30年代頃の給食のおもな主食は何でしょう？

- ① そば
- ② うどん
- ③ 餅

Q.2 調理員さんのエプロンの色がいろいろあるのはなぜ？

- ① 楽しく働くため
- ② 作業ごとに色わけをしているため
- ③ 特に意味はない

【取組 3】(テーマ) 保護者への啓発

新転入生保護者対象の給食試食会では、本校の学校給食の説明のみでなく、家庭での食事の重要性について、特に幼児児童生徒の朝ごはんの喫食について理解と協力を求めた。

幼児児童生徒対象の食生活アンケートを実施し、その結果と家庭での協力をお願いを給食だよりで3回に分けて発信した。

家庭での食育が大切

- 毎日3回食べるので年間の食事回数(は)1095回
- 1年間の給食実施回数(は)約195回

給食は約1/6にすぎない!

195回/1095回

4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

県内統一メニューの「ひろしまオールスター★坦々丼」と合わせて、特別支援学校統一メニューとして、「トクトク★おこめんスープ」を提供した。給食試食会では「大根と鶏肉の瀬戸内さっぱり煮」を提供し、参加された保護者への情報提供を行った。給食だよりの号外を発行し、「ひろしま給食100万食プロジェクト」について家庭や各クラスへ情報発信した。「ひろしまおやつレシピ」を幼児児童生徒や教職員、来校された保護者等が活用できるよう、自由にレシピを持ち帰れることのできる掲示物として校内廊下へ掲示した。



5 取組に対する成果と課題

【成果】

昨年度アンケートの問い方に課題があり、今年度は○×で回答できるよう問い方を簡潔にしたことで、昨年度よりも精度の高い実態把握ができた。また、幼児児童生徒の実態に応じて自由記述とした項目では、広島県の地場産物・郷土料理の認知度や、正しい配膳位置の定着状況などを把握をすることができた。

栄養教諭の食に関する指導では、給食時間以外の教科や学部朝会における指導の時間・回数が昨年度より増え、知的障害部門中学部・高等部の学部朝会における月1回の計画的な指導は定着させることができた。

【課題】

食生活アンケートについて、今年度も1回のみの実施にとどまり、年度内での比較ができなかった。

昨年度の結果と比較すると、

○朝ごはんを毎日食べて登校する幼児児童生徒の割合 83.2%→86.7% (目標値 90%)

○土日や夏休みも毎日朝ごはんを食べている幼児児童生徒の割合 72.6%→82.9% (今回は目標値の設定なし)

○食事の際に「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをする幼児児童生徒の割合 84.1%→86.7%

(目標値 100%)

であり、目標値には届いていない。食事のあいさつや配膳位置などについては、継続して給食時間の声掛け指導を行っていききたい。

栄養教諭の食に関する指導では、栄養教諭が関わる部門・学部学年に偏りがみられるため、食に関する指導の全体計画や食に関する指導の年間指導計画を活用して、学校全体の食に関する指導が系統的に行われるよう各担任との連携を深めていく必要性を感じた。

6 今後の取組に向けた改善方策について

食に関する指導について、食に関する指導の全体計画や年間指導計画を活用して、教科等への計画的な関わりを意識して担任等と連携していききたい。幼児児童生徒の発達段階に応じた食に関する指導の実践につなげるため、実態把握に努める。

家庭への啓発については給食だよりが主であるが、直接的な情報発信につなげるため保護者対象の給食試食会の回数を増やすことを検討している。